

みんなで作る

森ものがたい

2017年12月9日発行 第124号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字桧原855-1
TEL:092-871-2112
FAX:092-801-8661
<http://www.morikai.org/>
mail: aburayama@morikai.org



9/2 うん・えー会の後、精鋭5人でアカマツ林の草刈りに取り組みました

	表紙	1
	活動ノート(9/2,9/24,10/8,11/4,11/12)	2~3
も	特集「カブトムシの森 林床植生調査」	4~5
	特集「昆虫調査」	6
く	情報コーナー	7
	リレーコラム「炭焼き」	7
じ	うん・えー会報告(9/2)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。会では、随時、会員を募集しています。興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



9月2日(土)
アカマツ林作業
12:30~15:30



◆参加者:松雪、国広、林、中嶋、鎌田 計5名

◆内容:今日は、全員でA地区斜面とその横の遊歩道沿いの草刈りを行いました。このA地区には、貴重種保護あるいはアサギマダラなどの蝶を呼び寄せるために、キキョウやオケラ、ヒヨドリバナ、クサギなどの草花を積極的に残しているという取り組みをしています。A地区での作業が終わったので、C地区の草刈りも行いました。このエリアは、地形的に足場が極めて悪いため、最近手があまり付けられておらず、人の腰より高いシダが繁茂し、人が立ち入ることができないような状況になっていましたが事故等無く萌芽枝などの除去をほぼ終えることができました。これまで草刈りや落ち葉掻きなどの手入れを毎年行ってきたA地区では、シダやサクサなどの勢いが徐々に弱くなっている一方で、あまり手が入らなかったC地区中央部斜面でのシダや萌芽枝の繁茂が著しいことからすると、毎年の地味な作業の積み重ねがいかに大事かということを実感させられます。特に、常緑樹の

伐採で森が明るくなると、草刈りや落ち葉掻きなどが欠かせなくなると思います。因みに、B地区で「地掻きの有無でのアカマツ幼木の発生・生育の違い」を調査しているコドラートを見ると、このことを実感することができますので是非足を延ばしてみてください。

【ふりかえりより】

・鎌が良く切れ作業がスムーズでした。アカマツの実生が草刈りで周りがスッキリし喜んでいました。(国広)

9月24日(日)
カブトムシの森勉強会と植生調査

9:30~15:00



◆参加者:鎌田、林、織田、川上、静間、吉田、橋本、体験5名 計12名

◆内容:今日は、カブトムシの森を地区毎に数名で担当して樹木、下草の種類調査と今後の予定を話し合うワークショップを行う予定でしたが、参加者が少ないことと同定できる人が少なく、調査・ワークショップを断念し、体験参加者と共にカブトムシの森の樹木層を見て回ることにA地区の林床の植生調査を行うこととしました。カブトムシの森では、体験参加者と共に5か年計画の内容と現状を確認し、現況の樹木を見て回り、少し早い昼食を

とりました。午後は、A地区の調査地を2班に分かれて、調査を行いました。林床植生調査は例年とほぼ同じ結果で、調査地100㎡の中で10~14種の確認ができました。植生調査は少人数で行っており、本日の参加者の多くは初体験で、どのような調査を行っているかを知ってもらえたのは良かったと思います。植物の種類を増やすために日照を増やす、表土の攪乱、近くから表土の移植等を検討する必要があると思いました。本日体験参加の平野家5名入会していただけることになりました。お子さんたちも森を楽しんでもらえればと思います。

【ふりかえりより】

・めずらしくゆっくり森の中を散策しました。植物の名前はなかなか覚えられませんが1つづつ記憶します。(織田)

10月8日(日)
アカマツ林作業
9:30~16:00



◆参加者:松雪、国広、橋本、森山、川上、静間、林、鎌田、平野(光、陽、正、結、綾)、白石、榊、中嶋 計16名

◆内容:10月にしては最高気温が28度とやや暑い日でしたが、快晴の天気で本当に気持ちのいい秋晴れの1日となりました。今日の参加者は1才と5歳のかわいい子供たち(初

参加)を含めて16名という楽しい集まりとなりました。今日の作業は、ほぼ5か月ぶりの広葉樹の除伐です。最初にC地区・D地区の2班に分かれ、第1班はヤマハゼとタブノキ、第2班はコナラとユズリハの伐倒を行うこととしました。各班とも最初は草刈り等の下準備や手順を思い出すのに手間取り、少し遅れ気味の作業となりました。それでも、午前中には直径20cm前後のヤマハゼやコナラは何とか伐り倒すことができました。午後は、直径30cm前後とかなり大きかったにもかかわらず、比較的短時間で予定通りの伐倒を行うことができました。その他の作業として、C地区全体にジャングル状に繁茂していた萌芽枝やシダ等を手の空いた人で刈り取りました。シダはまだかなり残っていますが、萌芽枝はほとんどすべて刈り取ることができ、A地区と同様かなりすっきりした斜面になりました。大きなユズリハやタブノキを伐ることができ、また見た目にも悪かったC地区斜面の景観もかなり良くなりました。とくに、D地区東端部のユズリハを伐ったおかげで、D地区中央部の広葉樹の除伐がかなりやりやすくなりました。また、6月の安全講習会の成果か、偏心した広葉樹の伐倒もほぼ基本通りに、かつ想定した方向に安全に伐り倒すことができました。これからは、カブトムシの森を含め難しい伐倒が続くかと思いますが、技量をさらにアップして安全な作業に努めていきたいと思えます。

【ふりかえりより】

・伐倒作業の方法を知ることができ大変興味深かった。子供たちも楽しく参加させて頂きました。(平野光)

11月4日(土) カブトムシの森 間伐、草刈り 9:30~16:00



◆参加者: 静間、林、松雪、鎌田、榊、妹尾、諸藤 計7名

◆内容: 今日には人数が少なかったため、活動場所を当初予定していたA、Cの2地区から、Aのみとして、2組に分かれて作業しました。樹高が高い上に近接木が多く、伐倒方向に細心の注意を払いながらの作業となり、ロープも使用して万全を期しました。萌芽更新の促進のために林内照度を上げるのも、今回の作業の目的で、それに沿って伐採木を選木しました。結果として直径25センチ前後のクヌギ6本を伐採できました。材は今後暫く葉がらして乾燥させて、玉切りした後、2月のシイタケ菌打ちに使用します。作業の間際にササ、萌芽枝、実生樹木を刈って、少しすっきりさせることが出来ました。今日は時折雨がパラパラするような天気が入園者が少なく、作業地区に入ってくる人もいなかったので、安全確保に人手を割かずすんで助かりました。作業は安全かつ正確に進めることができて良かったです。今後、常緑高木の除伐と併せてクヌギの間伐も促進して、クヌギ林のムズな全面更新とそれに伴う下草刈り作業の強化が課題です。本日、体験参加の諸藤さんが入会されました。

【ふりかえりより】

・過去最多の1日2本もクヌギを切れたので、とても充実した1日でした。倒れた瞬間の音がやっぱり最高です。(妹尾)

11月12日(日) アカマツ林除伐 9:30~15:30



◆参加者: 松雪、国広、織田、林、鎌田、橋本、榊、平野(光、陽、正、結、綾) 計12名

◆内容: 今日の作業予定はC地区でのタブノキやクスノキの伐倒です。タブノキ(直径35cm強の大きな木)が谷側に偏心しており、へたをすると掛かり木になるおそれがあり、また、山側にかなりの力で引っ張らないと追い口のノコが入らない可能性があったため、少人数でも大きな力で引っ張れる動滑車を初めて使うことにしました。まず、谷側に伸びている枝を高枝ノコであらかじめ切って、重心が少しでも山側方向になるようにしました。実際に切り始めると思ったよりノコの入りが良く、午前中で予定した方向に、伐倒ができました。伐倒班の午後からの作業は直径30cm弱のクスノキ除伐でしたが、これも予定方向と寸分たがわれないきれいな伐倒ができました。作業後は、全員でタブノキやクスノキの枝葉のヤードへの搬入及び枝処理を行いました。これもほぼ完ぺきと言える形で終了し、処理前は見た目の悪い雑然としたヤードが見違えるほどきれいになりました。

【ふりかえりより】

・晴天で少し寒いくらいでしたが、気持ちよく汗が流せました。2本切りましたがいつになくうまくいきました。(橋本)

特集「カブトムシの森 林床植生調査報告」

カブトムシの森の A 地区では、保全活動が林床植生に与える影響を調べるために、林床植生調査を行っています。2015 年度から年 2 回(春と夏)、あまり種が見られなかったため、2016 年度から春と秋に行っています。今年度は春(4 月 16 日)、秋(9 月 24 日)に実施しました。調査は、10m×10m の調査区を 4 つに分けた、5m×5m の区

画 4 つ(調査区 I~IV)で行いました。蕾・花・果実が見られる種を記録すると共に、それぞれの植物の被度の計測を行いました。被度は、階級の大きい方から、5、4、3、2、1、+ の 5 つに分けられます。春の調査票を基に、秋の調査表を次のページに示しています。今回の調査では、春 16 種を見る事ができました。多くは、過去 2 年間の調査で見られた種と同じでした。これは、ここ数年、間伐等により、高木であるクヌギに大きな変化はなく、林床の環境は一定であるためであると考えられます。

カブトムシの森 林床植生調査

実施日: 2017/4/16

実施者: 鎌田 吉田 中嶋 柴戸

科名	種名	被度の階級値				蕾・花・果実
		区画 I	区画 II	区画 III	区画 iv	区画 I~iv
サトイモ科	マムシグサ	+	+	+		蕾(花)果実
スミレ科	ナガバタチツボスミレ	+		+	+	蕾(花)果実
アカネ科	キクムグラ	+	+	+	+	蕾(花)果実
カヤツリグサ科	スゲ属の一種	+		+		蕾(花)果実
セリ科	ヤブニンジン	+	+	+	+	蕾(花)果実
ケシ科	ムラサキケマン	+	+	+	+	蕾(花)果実
シソ科	カキドオシ		1	+	+	蕾(花)果実
アカネ科	ヤエムグラ		+	+		蕾(花)果実
スミレ科	ツボスミレ		+			蕾(花)果実
ナデシコ科	ハコベ		+		+	蕾(花)果実
キク科	ノアザミ		+			蕾(花)果実
アブラナ科	タネツケバナ		+			蕾(花)果実
バラ科	クサイチゴ			+		蕾(花)果実
イネ科	イネ科の一種			+		蕾(花)果実
バラ科	ヤブヘビイチゴ				+	蕾(花)果実
ナデシコ科	ミミナグサ属の一種				+	蕾(花)果実

一方、秋の調査では、24種類見ることができました。昨年の秋の調査では、21種類でした。今年度は、昨年より一か月以上早い調査のため、花が多く見られました。カブトムシの森を思い浮かべても花が咲き誇るイメージはなく、森の中でひっそりと咲いているという印象しかありません。カブトムシの森の林床植物を増やすために間伐を進めてきました。以前に比べ林床は明るくなり、草本類も増えてきましたが植物や昆虫の観察がで

きる森とするためには間伐の推進とともに以前から話題に上がっていた「種」を増やす方法として①油山内の他の地域から埋土種子を期待した表土の移植、②埋土種子からの発芽や周辺からの飛来を期待した表土の攪乱（裸地化）などの実施を検討する時期にきているのではないのでしょうか。今年度の調査にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。（鎌田）

カブトムシの森 林床植生調査

実施日： 2017/9/24

実施者： 鎌田 吉田 川上 林 織田 橋本 静間

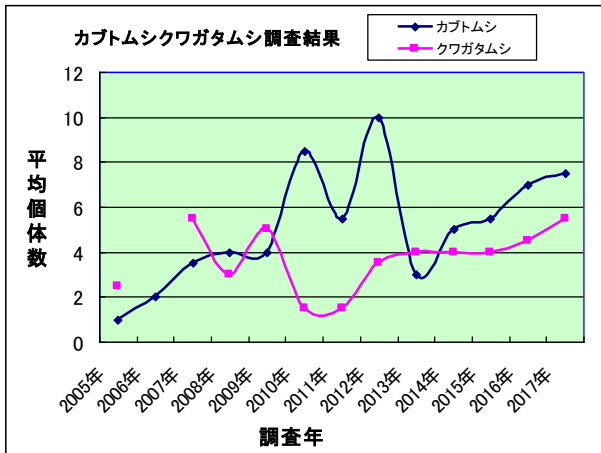
科名	種名	被度の階級値				蕾・花・果実
		区画Ⅰ	区画Ⅱ	区画Ⅲ	区画Ⅳ	区画Ⅰ～Ⅳ
カヤツリグサ科	スゲ	1	+	+	+	蕾(花)果実
バラ科	フユイチゴ	1	1	+	1	蕾(花)果実
タデ科	ミズヒキ	+	1	1	+	蕾(花)果実
タデ科	イヌタデ	?	-	-	?	蕾(花)果実
フウロソウ科	ゲンノショウコ	+	+	+	+	蕾(花)果実
イネ科	チヂミザサ	+	-	-	+	蕾(花)果実
イネ科	ケチジミザサ	-	+	+	-	蕾(花)果実
キク科	シュウブソウ	+	+	+	+	蕾(花)果実
マメ科	ヌスビトハギ	+	+	-	+	蕾(花)果実
マメ科	ヤブマメ	+	-	-	-	蕾(花)果実
ツユクサ科	ツユクサ	+	+	+	+	蕾(花)果実
バラ科	ダイコンソウ	-	+	+	+	蕾・花(果実)
ヒユ科	イノコヅチ	+	+	1	-	蕾・花(果実)
シソ科	ツルニガクサ	-	-	+	-	蕾・花(果実)
ラン科	ツチアケビ	-	-	+	-	蕾・花(果実)
キキョウ科	ツルニンジン	+	-	-	-	蕾(花)果実
イネ科	ススキ	-	-	+	-	蕾(花)果実
キク科	ヨモギ	+	-	-	-	蕾(花)果実
タデ科	ハナタデ	+	+	-	+	蕾(花)果実
バラ科	ヒメミズヒキ	+	-	-	-	蕾・花(果実)
タデ科	イタドリ	+	-	-	-	蕾(花)果実
スマレ科	タチツボスミレ	+	-	-	-	蕾・花(果実)
イネ科	ササガヤ	-	+	-	-	蕾(花)果実
アカネ科	ヘクソカズラ	-	-	+	-	蕾・花(果実)

特集「昆虫調査」 世話役：新牛込

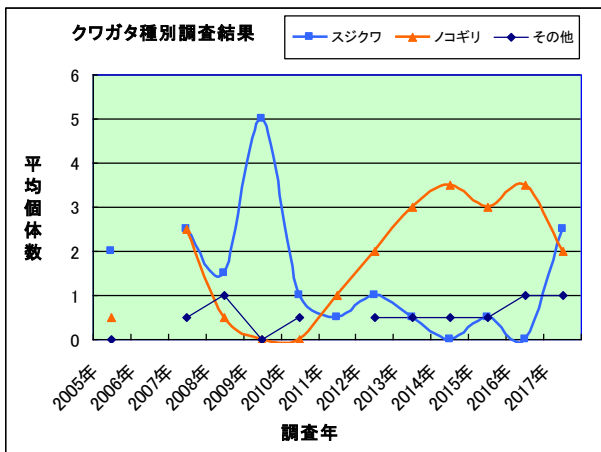
■カブトムシとクワガタムシの1回平均採集数

カブトムシは比較的安定して採集されていますが、一時期減っていたクワガタムシについても徐々に数が増えてきているようです。

なお、2013年からはトラップの数を12個⇒6個へ減らしていますし2013～2014年はトラップ荒らしがあったため、参考値となっています。



増えてきたクワガタムシの種類別採集数は以下のようになっています。



その他に含まれるのはコクワガタ、ヒラタクワガタ、ネプトクワガタ、ミヤマクワガタとなります。

主なクワガタムシはノコギリクワガタとスジクワガタとなっていて、昨年の特集でスジクワガタが減っている原因として新しい倒木が減ったことが原因ではないかと分析していましたが、ここ数年は間伐した材木をカブトムシの森にある程度残してきたことも寄与してか、スジクワガタがノコギリクワガタよりも多く採集される結果となりました。

今年だけでははっきりとは分かりませんが、来年以降も続くようであれば、産卵場所の確保によりクワガタムシの数がさらに増える可能性もあります。

さて、来年は未発見のクワガタやコガネムシも見つかることを期待したいと思います。

■ その他の昆虫について

今年度新たにカブトムシの森の昆虫リストに加わった昆虫は以下の5種です。

- ・ オオナガコメツキ
- ・ ミカドアゲハ
- ・ スナゴミムシダマシ
- ・ チョウセンカマキリ
- ・ ミヤマカラスアゲハ

これで昆虫調査で同定された昆虫は合計で222種となりました。

その中で、コウチュウ目が今回見つかったスナゴミムシダマシでちょうど節目となる100種となっています。



写真は8月に久しぶりに同定されたウスバカミキリです。

毎年よくライトトラップで見つかるミヤマカミキリに似ていますが、胸部が黒っぽいごつごつしたミヤマカミキリに比べてすべすべて体と同じ色をしているのがポイントです。

近年は新たに同定される種が鱗翅目の蛾や蝶を除くとかなり少なくなってきています。

しかしながら、まだまだ油山には多くの昆虫種が住んでいることは間違いありません。

今年度も同定には至らなかったカミキリムシやハネカクシの仲間もいました。

引き続きカブトムシの森の昆虫リストを増やしていきたいと思いますのでご興味のある方がいらっしゃいましたらまずは気軽に体験参加でも結構ですので一緒に昆虫を探してみませんか。

昆虫調査班はいつでもお待ちしております！

情報コーナー

■「油山で登り初め登山」

内容：清々しい空気を味わいながら油山山頂へ
日時：1月13日（土）10:00～14:00
費用：200円/人 対象：どなたでも（定員50人）
申込：ホームページ・往復はがき 12/22 必着

■「おとな自然講座～鳥の一眼撮影編～」

内容：野鳥撮影のコツを学びます。（座学のみ）
日時：1月21日（日）13:00～15:00
費用：200円/人 対象：中学生以上（定員30人）
申込：ホームページ・往復はがき 12/25 必着

■「エナガの群れ悲喜こもごも観察会」

内容：冬の森で野鳥を観察します。
日時：1月28日（日）9:30～13:00
費用：200円/人 対象：どなたでも（定員40人）
申込：ホームページ・往復はがき 1/5 必着

■「おとな自然講座～カメムシ編～」

内容：くさい？カメムシを学びます。（座学のみ）
日時：2月4日（日）13:00～15:00
費用：200円/人 対象：どなたでも（定員30人）
申込：ホームページ・往復はがき 1/12 必着

■「しいたけコマ打ち体験」

内容：森の保全体験とししいたけのコマ打ちを行います。
日時：2月11日（日）10:00～15:00
費用：200円/人 対象：どなたでも（定員30人）
申込：ホームページ・往復はがき 1/19 必着

■「梅にウグイス観察会」

内容：早春の森で野鳥を観察します。
日時：2月25日（日）9:30～13:00
費用：200円/人 対象：どなたでも（定員40人）
申込：ホームページ・往復はがき 2/2 必着

★申込み方法

①油山市民の森・自然観察の森ホームページの行事申込みメールフォームに必要事項を入力して送信してください。

②往復はがきに「行事名・実施日・参加者全員の氏名と年齢・代表者の住所と電話番号」を明記のうえ油山自然観察センターまでお送りください。

★お問合せ：油山自然観察センター

〒811-1355 福岡市南区大字松原 855-1

電話 092-871-2112

HP <http://www.shimi-mori.com>

リレーコラム

～炭焼き～

川上 寛

学生時代、山が好きで北アルプスなど登っていた時は、山では草一本とってはいけないと言われ、自然を守るとはそのようなことだと信じていました。森会には2006年に活動説明会を聞いて入会したのですが、森林保全活動と聞いて、草刈りや枝打ちをして、森の木を育てる会だとイメージしていました。このため、森会に入り、生木をガンガン切っていくことに最初は非常に困惑し、森林破壊をしているのではとも思いました。森会の学習会などに参加して、木を伐って、薪や炭を作り、落ち葉かきをして、堆肥をつくるという里山づくりを学び、人の手が入った里山は自然林とは違うことを理解し、その後、少し木を伐ることへの抵抗感がなくなりました。

森会では、カブトムシが育つようなクヌギやコナラの森づくりを行っています。5ヶ年計画を立て、たくさんの雑木を伐採しています。昔は生活に必要なため、里山の木を伐り薪や炭にして利用してきましたが、現在では、木を伐ったあとの利用法があまりないのが悩みです。森会では、一部を櫓木にしてシイタケ栽培をしています。使い切るほどではありません。

私の夢は、油山にある炭焼き窯あとに窯を再現し、炭を焼くことです。油山で昔、どのように炭焼きしていたかを文献や関係者から聞きだし、窯を再現し、昔のやり方で炭を焼けないかと思っています。これにより、カブ森の木もエリアごとに伐採していくサイクルができると思います。油山の管理者の許可も必要でしょうし、なかなか困難なことだとは思いますが、しかし、森会の「うん、えー会（運営会）」は、うんと納得したり、えーっと疑問を持ったりしながらも、合意形成してきたという歴史があります。いつかみんな、油山で炭焼きが実現できればと密かに思っています。



＜間伐したクヌギを利用したシイタケ栽培＞

うん・えー会報告

2017. 9. 2 9:30-12:00

司会：林 板書：鎌田

出席：榊、松雪、川上、国広、橋本、中嶋 計8名

1. 役割決定、資料確認
2. 7～9月活動報告（活動報告p2-3参照）

【関連事項】

- ◆カブ森・昆虫調査の調査データの報告は次号に掲載予定
- ◆「せせらぎ整備」は、新しい活動として2018年度計画に組み込む（カブ森作業の一環）
- ◆B 地区飼育小屋の撤去と基礎部分の利用の推進をセンターへ依頼
- ◆カブ森に設置した「インセクトホテル(昆虫の宿)」に作品の説明板作成をセンターに依頼
- ◆インセクトホテルに、ドロバチが巣を作っていたことを確認

3. 9～12月活動予定（活動予定p8参照）

4. その他

4-1 会報『森ものがたり』について

輪転機が故障し、今後はコピー機で印刷することとなった為(印刷代は有料)、会員向けアンケート結果を参考に種々見直しを行った。

- ◆配布先の廃止・新設及び配布部数削減
- ◆会報のメール送付可否を再入会手続き時に確認
- ◆原稿作成から印刷への流れ
 - ① A4版で作成しワードファイルをセンターへ送付
 - ② センターで打ち出し原稿とし協会でコピーまたは、協会PCから直接プリント
※A4用紙を無くし原則A3用紙2枚とする

◆費用及び効果

- ・印刷代が有料となるが、配布先廃止に伴う郵送料削減により、新たな費用負担は発生せず
- ・コピー機使用で写真部分がより鮮明になる
- ・発送作業が軽減される

4-2 4～8月 活動実績報告

- ・活動回数 10回
- ・全参加者数 118名、平均参加者数 11.8名

4-3 スズメバチが多いので要注意！!

4-4 スマホ版ホームページを検討する(広報)

4-5 ㊟活動記録等様式の原紙を使用しないこと



活動予定（2017年12月）

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・えー会〉〈勉強会〉は雨天決行

集合 9:30、解散 15:30

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)でご参加ください。必要な持ち物はいぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。

12月9日(土) うん・えー会とアカマツ林作業、カブトムシの森植生調査

うんえー会は活動報告と予定、その他予算消化状況の報告。アカマツ林作業は下草刈り、萌芽枝伐採カブトムシの森植生調査はクヌギの成長調査

12月17日(日) 納会とカブトムシの森作業

カブトムシの森作業は萌芽枝・常緑樹実生・ササの除去と除間伐。アカマツ林成木調査は成木の確認と個体識別のタグの貼り直し

午後は納会としてたき火を囲んで一年の振り返り

1月14日(日) アカマツ林作業と幼木調査

アカマツ林作業は広葉樹の除間伐
幼木調査はアカマツの幼木の個体数と樹高調査

1月21日(日) カブトムシの森作業

萌芽枝・常緑樹実生・ササの除去と除間伐

2月11日(日)

しいたけコマ打ち体験(活動説明会)

カブトムシの森で保全体験、しいたけのコマ打ち、昼食はキャンプ場で火を囲みながら。

2月25日(日) カブトムシの森作業

萌芽枝・常緑樹実生・ササの除去と除間伐

3月10日(土) 年度末うん・えー会

当年度議題は活動報告、活動実績報告、「世話役活動の振り返り纏め」報告、会計報告

次年度議題は役員、会員、活動予定、予算等

3月25日(日) アカマツ林作業

植生遷移防止及び実生幼木生育増進のため D・E・F 地区で広葉樹の除間伐

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊発行

編集担当：川上寛、国広信幸、鎌田隆、静間純、

松雪清人 印刷担当：山川昇一
